

14. 南アルプス北部縦走

1) 日程

1985年07月20日～07月23日(前夜発3泊4日)

2) コース

- 第1日 広河原—大樺沢—八本歯コル—北岳—北岳山荘
- 第2日 北岳山荘—間ノ岳—西農鳥岳—大井川源頭—熊の平
- 第3日 熊の平—北荒川岳—塩見岳—三伏峠
- 第4日 三伏峠—塩川

3) 記録

07月20日 23:55発は、通勤電車並みの混雑だった。八王子までは、真直ぐ立ってもいられないほどで、結局甲府まで立ちっぱなしだった。広河原まではタクシーの相乗りで行く。

目が覚めると広河原はまだ薄暗かった。靴ひもを締め直す。今回は3泊4日の行程だが、荷物をなるべく軽くして運動靴で来た。広河原ロッジで水をくみ、靴底が柔らかいので「足の裏が痛くならなければいいな」などと思いながら早速歩き始める。運動靴は足首が無防備なので、一步一步確かめるように薄暗い樹林の中の道を辿る。後から来た人に道をゆずり、自重気味にスローペースを守る。御池小屋への道を分けて大樺沢へ。だんだん明るくなるにつれ、沢身からは離れているものの大きな石がゴロゴロした河原状の道になり、右の斜面に所々ガレ場が現れる。沢身に近づいたところで朝食とする。

やがて視界も開けてきて、バットレスや大樺沢の雪渓が見えてくる。二俣でレストとする。ここから上は雪渓が続いているが、2年前ほど雪渓は小さくなく、沢の左岸の夏道を辿り時々雪渓を横切る程度だ。バットレスから直接流れ落ちてくるかのような滝のあるところで再びレストとする。見上げるとバットレスが、真っ青な空をバックにのしかかるように迫ってくる。

前回上部の二俣付近は、雪渓の中央を横断するように左の沢筋を辿ったが、今回は雪が少なく、雪渓の縁を回り込むようにして、雪渓に入らず左の沢まで行けた。水は流れているが、すでに源頭の趣となった沢を辿り尾根取付き点まで行って、レストとする。

白鳳溪谷を隔ててずっと見えていた鳳凰三山を登高の目安としていたが、やっと同じ位の高さまで登ったようだ。道は右に折れて灌木帯のジグザグの登りとなる。大きな岩を回り込んだところで稜線が見える。稜線に出ると間ノ岳から農鳥岳方面が見渡せるが、谷からはガスが登り始めているようだ。立ちっぱなしだった夜行の疲れも出

始めたのでゆっくり休む。

ハシゴを越えると大きな岩のゴロゴロした斜面を歩き易そうなところを左右に捜しながら登る。北岳山荘分岐の道標を見送る。北岳山荘は大昔に倒壊してしまったはずなのになあと思いながら登るが、後で旧稜線小屋に北岳山荘と看板がかかっているのを見てなるほどと思う。主稜線にたどり着いたところでレストとし、ザックを置いて北岳に向う。お花畑の点在する崩れ易い道を登ること15分ほどで山頂へ。4度目にして初めて360度の展望を得た。いつもガスっていてほとんど景色らしい景色を見たことがなかったのだ。写真を撮ったり、岩に寝転んだりしてゆっくり休む。分岐へ引き返し、ザックを背負って下る。今日のキャンプサイトとなる北岳山荘を眼下に見ながらのんびり下って行った。

テントを張り終えて水を汲みに水場まで下る。いつもながらこれがかなりのハードワークなのだ。水場は旧北岳山荘の下なのだが、下りながら上り返す時が思いやられる。下りついた水場で5ℓのポリタンクを満し、冷たい水で顔を洗い、流れる水を手ですくって飲む。この美味さが堪えられない。しかし登りは今日の疲れが一気に出て休み休みとなる。おかげで途中のお花畑がゆっくり見れるなどと負け惜しみを言いつつ登り返すが、結局往復1時間以上かかってしまった。

07月21日 目が覚めてテントから外を見ると、雲は出ているものの星空が広がっていた。食事をとり、テントを撤収して出発。北岳を背に左手に富士山を見ながら朝の静かな空気の中を中白根を目指して登る。一汗かいたところで山頂へ。ここからは、間ノ岳への3000mを越える稜線が続く。小さな上下を繰り返しながら間ノ岳へ。山頂からは南アルプスの全ての山が見渡せるようだ。しばらく景色を楽しみながらのんびりするが、今日は人が多いようで次々と登ってくるので、後から来る人たちに山頂を譲って下ることにする。ガレた斜面を眼下に農取小屋を見ながら下る。三国平方面への分岐にザックをデポし、カメラだけ持って西農鳥岳への登りにかかる。さすがに荷物がないと体が浮きそうなくらい軽くグングン登る。西農鳥岳山頂の少し南東にある肩から、大井川を挟むように見る塩見岳が好きだ。間に隔てるものが何もなく、塩見岳が他の山々から離れて一人静かに立つ姿が美しい。塩見岳は何故か女性のイメージなのだが、毅然と立つ姿は気品と力強さを感じさせる。十分その美しさを堪能した後、山頂がすっぽりガスに包まれてしまった農鳥岳はカットすることにしてザックのデポ地に引き返す。

三国平への間ノ岳の巻道は、一旦急なガレ場を下り、再び登り返して尾根を回り込む。ここからはほぼ平坦な巻道となる。確かこのあたりに大井川の源頭があるはずだと思いながら歩いていると、小さな流れが右から道を横切って谷の方へ続いていた。流れに沿って斜面を少し登ると、大井川源頭の標識があり、水が湧き出している周りには、高山植物が小さな花をつけ、流れの中の岩には水苔が生えている。まるで作っ

たかのように美しい源頭だった。またしばらく行くと、今度は先ほどより大きな流れが道を横切っていた。ここは岩場の上を水が流るように流れているだけで、何の趣もないのだが、沢の規模、高度から言ってもこちらが源頭なのではないかと思う。源頭の標識を立てた人間は、ロマンチストだったのだろうと思いながら三国平へ。

だんだんガスが出始め、三国平は完全にガスの中で、パラパラ雨も降り始めた。傘を片手にお気に入りの熊の平へ。樹林とお花畑が交互に現れる。熊の平は、そんなお花畑に挟まれた樹林帯の中にある。天気があまり思わしくないので急いでテントを張る。ちょうどテントを張り終えたところにザッと降ってくる。何か嫌な予感がしていたが、やはり雷雨がやってきた。去年の聖平の再来かと思う。至近弾が数発あったもののそれほどでもなく一安心するが、雨は強弱を繰り返しながらもなかなか降りやまず、結局激しい雨が夜まで続いた。明日も雷だと塩見岳付近は遮るものもなく危険だなと思い、早立ちを決めて、早々に寝ることとした。

07月22日 AM2:05起床。外を見ると雲が多い。昨日は昼過ぎに雷雨となったが、今日はそれが速まらなければよいがと思いつつ出発の支度をする。テントの撤収を始めるがまだ暗く、ヘッドランプをつけての作業で手間取る。4時過ぎようやく出発するが、空は灰色の雲に覆われ今にも降りだしそうだ。

熊ノ平から塩見岳までのコースが好きで、ここ数年何度かにわたってきている。あまり大きな登高もないのだが、小さなピークからの眺望や、樹林の中に点在するお花畑と次々と現れる変化が楽しい。そして何より人が少なく静かな山歩きが楽しめる。しかし今日は昨日の雷雨もありなるべく早く塩見岳まで行っておきたいこともあり、急ぎ足となる。しかし夏の花々が一斉に咲き誇っているお花畑では自然と足が止まる。その途端ムツとするほどの草いきれの中、虫たちの忙しそう羽音が聞こえてくる。高山の短い夏の盛りを惜しんでいるかのようなようだ。北荒川岳まで来て空も高曇りのまま、雷もすぐには来そうもなくちょっと安心する。左に大きく開けた岳沢の源頭を見て、塩見岳への登りにかかる。今回は荷物をなるべく軽くし運動靴で来たこともあり、足取りは軽い。ただ足が保護されていない分、十分注意する。

塩見岳の山頂で一休みするが、空は高曇りにまま今いちパッとせず、周囲の山々も沈んで見える。塩見岳は南アルプスの主稜線にありながら、他の山々とは離れ、ポツンと一人で立っている。夏山の底抜けの明るさも似合うが、今日のような雰囲気も似合ってしまうんだよな、などと思いながら誰も来ない山頂で一人感慨にふけっていると、三伏峠方面から人声がし、誰か登ってきたようなので入れ替わりに、ガレ場の浮石に注意しながら下り始める。

数年前に焼失し、建て替わったばかりの塩見小屋を過ぎると樹林の中の道となり、分岐を左に三伏沢へ。キャンプサイトには一番乗りということで、十分選んでテントを張り、沢の水を浸したタオルで体を拭きさっぱりする。ここで食べようともってきた、冷

し中華で昼食とする。ささやかな贅沢？だ。午後は、結局雷雨も来ず、暇に任せて三伏峠方面を覗いたり、去年行った烏帽子岳方面を覗きに行ったりと、アルコールの回った頭であてもなく歩き回っていた。

07月23日 今日は下るだけとあって、のんびりと支度をし、テントを撤収する。三伏峠付近のお花畑越しの塩見岳へ、「また来ます」と挨拶をして樹林の中の下りへ。この道は、一々〇合目、〇合目と表示板があるのだが、去年はこの道を1週間分の荷物を背負って、まだ〇合目かと思いながら登っていたなと思いつつ下って行く。確かここで休んだよなと思う場所を次々と降りていくうち、気温が上がり酸素濃度が濃くなってきて沢に下り着く。ここから小一時間歩いて塩川の土場に着く。バスの時間を確かめ、河原に下りて、汗を拭き、全てを着替えてすっきりした気分でバスを待つ。

4)コースタイム

年月日	時間		場所	備考
1985.07.20	04:20	着	広河原	
	04:25	発		
	04:38	発	広河原ロッジ	水をくむ。
	04:58	通過	御池小屋分岐	
	05:37	着	レスト	朝食を食べる。
	05:50	発		
	06:43	着	二俣	
	06:53	発		
	07:44	着	滝	
	07:55	発		
	08:25	着	尾根取付点	
	08:35	発		
	09:26	着	八本歯コル	
	09:35	発		
	10:00	通過	北岳山荘分岐	
	10:19	着	稜線	ザックをデポ。
	10:30	発		
	10:44	着	北岳	
	11:10	発		
	11:19	着	稜線	
11:35	発			

1985.07.21	12:03	着	北岳山荘	
	03:15	起床		
	05:15	発		
	05:46	着	中白根	
	05:58	発		
	06:47	着	間ノ岳	
	07:20	発		
	07:54	着	三国平分岐	ザックをデポ。
	08:00	発		
	08:30	着	西農鳥岳	
	09:00	発		
	09:23	着	三国平分岐	
	09:35	発		
	10:10	着	大井川源頭	
	10:15	発		
	10:25	着	もう1つの源頭	
	10:30	発		
	11:04	着	三国平	
11:15	発			
11:35	着	熊の平	12時過ぎより雷雨。	
1985.07.22	02:05	起床		
	04:37	発		
	05:21	通過	岩峰	
	06:12	通過	北荒川岳	
	06:49	着	レスト	塩見岳登り手前
	07:00	発		
	07:26	通過	塩見岳肩	
	07:56	着	塩見岳	
	08:30	発		
	09:05	着	塩見小屋	
	09:15	発		
	10:12	着	権右衛門山	
	10:22	発		
	11:45	通過	三角点	
	13:12	通過	分岐	

1985.07.23	11:20	着	三伏沢	
	03:05	起床		
	05:10	発		
	05:30	通過	三伏峠	
	05:36	通過	お花畑	
	06:48	着	レスト	沢
	06:58	発		
	07:45	着	塩川	